

第100回研究報告

Turing Award, Gödel Prize を受賞する為に必要な最低限の知識について

神奈川 太郎

2015 年 4 月 9 日

1 概略

ゼミ資料の内容を数行で書く。どんな疑問について、どんな所に着眼して、どんな検討をし、どんな結論を得たのか。

2 準備

先生の授業の様に前回の復習から始める。予備知識を復習する。“連とは何か”など。

3 前回までの経緯，問題点

何が問題となっていたかを概説する。

4 本論

加減乗除を理解している必要がある。

5 まとめ，今後の課題

因数分解を理解する予定。

参考文献

[1] 創長谷川，賢治三河，賢田中，“B-7-33 任意のビットマスクに対応した階層型トライの提案 (b-7. 情報ネットワーク，一般セッション),” 電子情報通信学会総合大会講演論文集，vol.2011，no.2，p.197，feb 2011.

6 チェックリスト

- $5 + 3 = ?$
- $5 \times 5 = ?$

A 参考文献の書き方

参考文献の書く為には，`makefile` 中の `pbibtex` 行のコメントアウト (`#`) を外し，本文中参照すれば良い。例えば，`tex` ファイル中に `\cite{siftsearch}` (`siftsearch` は，`template.bib` 中で論文 [1] を参照する為に対応付けたラベルである) と書けば，

[1]
の様に参考文献に対応する番号を表示する。また，

```
{\small  
\bibliographystyle{ieice.bst}  
\bibliography{template}  
}
```

を `tex` ファイル中に書いた場所に参考文献が表示される。但し，`pbibtex` を行う (`makefile` 中のコメントアウトを取り除く) のに，本文中に上記の `\bibliographystyle{~}` を記さない，または，本文中で参照 (`\cite{~}`) を行わない，ということをする，コンパイルエラーになる (この `makefile`，若しくは `tex` ファイルが悪いだけで，良い方法があるかもしれないので，解決法をご存知の方は，教えて下さい)。

r201470039hs at kanagawa-u.ac.jp